

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 とぐし

Summer 2013

Vol.2

特集

「東アジア三大人形劇祭」を知りたい

いいだ人形劇フェスタで注目あつまる

Dogushi Vol.2 2013年7月発行 発行「人形劇のまち飯田」運営協議会
制作：NPO法人いいだ人形劇センター 〒306-0044 長野県飯田市本町1-2 TEL.050-3583-3594 FAX.050-3583-3594 E-mail: iida-puppet@misjans.or.jp

掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

ウェブからも情報発信!!

8月6日より、いいだ人形劇センターのウェブサイトがオープンします。人形劇公演やワークショップなどのイベント情報、活動状況をまとめたアーカイブなどさまざまな情報をお知らせするほか、ブログでは飯田の旬の話題をお届けします。お楽しみに。

■ URL: iidapapecen.com

会員募集中!!

いいだ人形劇センターでは、センターの目的と活動にご理解、ご賛同いただき、支援していただける会員を募集しています。お申込みいただくと季刊情報誌『Dogushi』、イベント情報などのお知らせを随時配信させていただきます。

【年会費】
正会員5,000円 賛助会員2,000円
詳細はウェブサイトをご覧ください。
■ 問合せ TEL.050-3583-3594

Dogushi

並木 さんぽ

山々の緑が濃くなり、田んぼの稲も背丈が伸びてきました。今年は飯田で人形劇の祭典が行われるようになって35年目。国内最大規模の人形劇の祭典といわれるまでになりました。演じ手はもちろん、観る人、支える人が一つになって作り上げられるフェスタは飯田が世界に誇れるものの一つ。人形劇の夏を大いに楽しみましょう。次号は10月発行予定。フェスタの報告、芸術の秋を感じていただける内容でお届けします。(帆)

表紙イラスト:井原千代子



View of IIDA

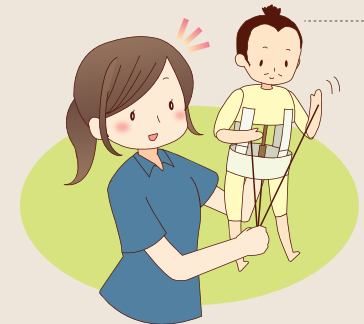
「いいだ人形劇フェスタ」で飯田へ訪れる方たちを歓迎しよう、と始まったウェルカム人形展。中心市街地の商店が趣向をこらした展示でウインドーを彩るほか、市内幼稚園・保育園の園児たちが作った人形もウインドーに飾られます。
(慈光幼稚園もみじ組、きく組の作品 / 飯田人形劇場)

わかる!! 人形劇用語

「胴串(とぐし)」

① 棒遣い人形や三人遣いの人形の頭(かしら)についている棒で、心串ともいう場合もある。遣い手は、これを握り人形の頭部を支える。うなずき(首をうなずかせる仕掛け)や眼や眉毛など顔の器官を操る糸が仕掛

けてある場合も多い。
② いいだ人形劇センターの情報誌の名前。
③ 人形劇団京芸のかつての劇団内機関紙の名前。
「胴串は人形の背骨だ。土性骨(どじょっぽね)だ」という名言が書かれていた。
差し金棒遣い人形では、つい差し金のついた人形の腕をやたらと動かしてしまふのだが、上手な人形遣いは、胴串のちよつとした傾きや動きで、



人形の心情や性格まで表現してしまうのです。
(人形芝居燕屋くすのき燕)

8月9日は
飯田市民館へ
行こう!!

見逃せない!! 交流公演

いいだ人形劇フェスタ期間中、東アジア三大人形劇祭友好提携5周年を記念して開催される交流公演。

韓国・春川、台湾・雲林、飯田それぞれが推薦する劇団が、8月9日(金)飯田市民館を会場に連続で公演を行います。



日本・いいだ人形劇フェスタ推薦 13:00 飯田市民館3F

今田人形座「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」

江戸時代中頃に伝わり300余年の間、人形浄瑠璃を愛する地元の人々により継承されている飯田市の今田人形座。母と子の悲しい別れを、今年100歳を迎え、若手の指導にもあたる太夫の金井美昇が語ります。

台湾・雲林国際偶戲節推薦 13:40 飯田市民館3F

真雲林閣掌中劇団「金光戯の紹介／八田與一伝PR」

台湾を代表する片手遣い人形「布袋戯」。テレビの普及とともに見る側の興味を引き付ける演出方法の「金光戯」が登場しました。この金光戯で演じる、日本統治時代の台湾で農業水利事業に貢献した日本人技師・八田與一の物語を紹介します。

※「嘉南大圳 八田與一伝」の本公演は8月10・11日飯田市鼎文化センターで行われます



韓国・春川人形劇祭推薦 14:30/19:00 飯田市民館ホール

劇団ロギナレ「The Salt Puppet」

1997年に結成し、国内外で意欲的に公演を行う劇団。人形劇にパントマイム、オブジェクトなどさまざまな手法を取り入れ、想像力の無限を感じさせます。詩的な語り、美しい音楽、幻想的な舞台が繰り返されます。



特集

いいだ人形劇フェスタで注目あつまる 「東アジア三大人形劇祭」を知りたい

2008年に韓国・台湾・日本で最大規模の人形劇祭を開催する3団体が飯田に集まり、「東アジア三大人形劇祭友好提携」を結びました。今年のいいだ人形劇フェスタでは友好提携5周年を記念した催しが行われます。再び東アジアの三大人形劇祭に注目が集まる中、それぞれの人形劇祭を紹介しましょう。

いいだ人形劇フェスタ「日本」
「みる演じるささえるわたしがつくるトライアングルステージ」を柱に、市民がつくる人形劇の祭典として15周年を迎えた国内最大規模の人形劇の祭典。1979年にスタートした「人形劇カーニバル飯田」から数えると35年となり、親子へ孫へと世代を超えて親しまれています。

雲林国際偶戲節「台湾」
雲林県庁と雲林県文化局によって1999年に開催され、毎年秋に行われる台湾最大規模の人形劇祭。雲林県は、台湾の人形芝居のふるさとともいわれ、さまざまな人形劇が息づいています。国際的な文化交流も行い、各国の人形劇団を招聘し、飯田からは竜峡中学校今田人形座、ましゅ&Key、竹田人形座の子会が上演しています。

春川人形劇祭「韓国」
韓国で唯一の人形劇を中心とした子ども劇場「春川人形劇場」で、毎年夏に開催される人形劇祭。世界各国のレベルの高い人形劇公演だけでなく、多彩なイベントも人気の祭典です。子どもたちが人形をつくることができ、「人形工房」や、世界のさまざまな人形を展示している「人形博物館」などがあり、博物館では飯田の紹介もしています。



わくわく イベントスケジュール

8 AUG アジアと伊那谷の芸能コラボレーション「あしたに咲く花」
8月3日(土) 18:30～ 会場／飯田市鼎文化センター
料金／指定席大人2,000円・小中学生1,000円
出演／台北慶和館、竜峡中学校今田人形座、御花泉

いいだ人形劇フェスタ2013

8月6日(火)～11日(日)
フェスタ15周年「アジア人形劇フェスティバル」開催

こま撮りえいが「こまねこのおるすばん」上映会

8月13日(火)・15日(木)、8月17日(土)～9月29日(日)の土日祝
各日10:30～、13:00～の2回
会場／川本喜八郎人形美術館映像ホール 料金／無料
昨秋、同美術館スタジオで公開撮影された「こまねこ」シリーズ最新作

9 SEP わたちゃんのダンボール獅子舞ワークショップ
頭作り 9月7日(土)、15日(日)、29日(日) いずれか1回
舞練習 10月6日(日)、13日(日)
会場／川本喜八郎人形美術館エントランス前
料金／300円(頭1体につき)
ダンボールで獅子頭を作り、オリジナルの獅子舞を練習。
10月20日(日)獅子舞フェスティバル創作獅子舞コンクールに出場します

●くすのき燕人形劇ワークショップ第三期「人魚姫」
キャスト、美術スタッフ、制作スタッフを募集します。10月ころより基礎レッスンを開始し、美術制作や稽古の後、2014年12月初演を目指します。詳細は随時お知らせします。

いいだ人形劇センターがサポート 「学べる」フェスタ15周年の特別企画

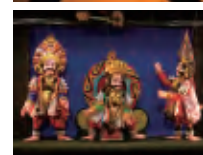
アジアの人形芝居ー 伝統と現代、そして未来へ

●アジアの人形芝居展

8/6(火)～11(日)
飯田市川本喜八郎人形美術館スタジオ
アジア各国の人形と資料を展示。インストラクターによる解説・体験コーナーもあります。
※フェスタ期間中、同美術館交流ゾーンでは世界の人形劇資料の展示、映像もご覧いただけます

●シンポジウム

8/11(日)13:00 飯田市民館ホール
アジア3カ国の事例発表を中心に、アジアの人形芝居の現状と課題、未来の可能性について語ります。各国の劇団によるデモンストレーションも行われます。
パネリスト／ティー・チアン一座(カンボジア)、ヤクシャガーナ人形劇場(インド)、カオニャオ(ラオス)、小西正捷(立教大学名誉教授)ほか



突撃!! 人形劇の ゲンバ Part2



初めて飯田を訪れた講師の林由未さん(写真右上)は「チェコの知人から飯田の話をよく聞いていたのでとても楽しみにして来ました」とあいさつ。ワークショップ一日目、参加者の皆さんは真剣な表情で設計図を描いています



お面のベースに粘土を重ねる工程。手のタッチをいかに凹凸をつけたり、水を含ませて凹凸を少なくしたり、設計図に沿って形を作っていきます



ワークショップ二日目。乾いた粘土の上に色づけをします。講師のアドバイスを受け参加者のみなさんは絵の具を数回塗り重ね、完成に近づけていきます



同じお面のベース「猫」を選んだ三人ですが、粘土の盛り具合やデザイン、色付けによりまったく異なる作品が完成しました

朧 人形たちの カーニバル

宇野小四郎「人形劇研究者」

「お人好しの祭典」

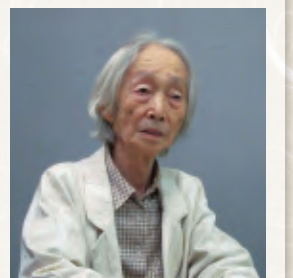
明らかに胡散臭い連中が5人やって来て、飯田で人形劇の全国的大会を開く計画をペラペラと喋った。飯田の面々はその話を聞いて首を捻ったり、眉を擧めたり、天井を見上げたりしていたが、その中のA氏は「すると君らが全国から人形劇を集めて飯田で大会を開くのか。」「そうです」。

B氏も聞いた「君たちどういう資格の代表なのか、どんな肩書きを持っているのかね。」「そんな資格やら肩書きはありません。僕は個人で勝手にやっているのです」。

C氏は「うーむ」と唸って「それでプロもアマも区別なく、飯田で、無料タダで、上演してくれるというのか。」「そうです」。

D氏「あのー。交通費、宿泊、食事代もいらんのね。」「そうです」。

E氏「しかし全国から集まるなら全日本



宇野小四郎
人形劇団ひとみ座創立メンバーで、(公財)現代人形劇センター元理事長。現在、銀の鈴舎主宰。人形劇の上演・演出・出版事業等、多岐にわたり活躍している。

人形劇フェスティバルというわけだ。「いえ勝手に集まるので全日本など名乗れません」。これはやっぱり怪しい話だ。

そこで長老F氏が一喝した。「君ら、わたしが田舎者だと思つて騙しとるんじゃないかね」。これには人形劇の連中もポカン。

でもそのとき松澤市長の昔からの友人で文化人の高堂正男翁さんが「まあフーちゃん(松澤市長の娘・文子さんのこと)の居る劇団だから信用しようよ」と言ったので一件落着。破天荒な人形劇の祭典が飯田で始まることになったのだ。

これは人形劇カーニバル飯田十周年記で出版された「人形たちがやってくる」と読み比べると二倍面白いよ、と余計なことを言った奴がいるけど無視しましょう。

(つづく)

たのしいお面をつくろう

なるため、最初に設計図を描くことが大切です」と林さん。続いて粘土をのせる工程に取り掛かると、参加者の皆さんの集中力は一気に高まり、たちまち一日目の作業が終了しました。

およそ一日、粘土が乾くのを待ち二日目は色づけです。ここで林さんが「一回で塗り終えず、何回か色を重ねること」とアドバイス。こうすることでより立体感が出て、色に深みが増すそう。「最初は迷いがあつたけれど、やっているうちに、色を重ねる」という意味がわかってきた」と作業を進める参加者も。林さんは「みなさん素晴らしい出来映え。実際にお面を使いたいという方が多いのに驚きました。さすが人形劇が35年続いている、飯田の精神を感じます」と話していました。

Library Cafe

飯田とつながる 世界の人形劇図書資料から②

この「人形劇図書資料目録」は現代人形劇を中心とした、初めての図書目録といえる。600ページ近いボリュームと重さは人形劇にもこんなに図書があるのだ、という証なのだ。内容については、ともかく並べたという程度で書誌学や専門家から見ればならぬ褒められるものでないものとはいえ、とにもかくにも人形劇研究にとっての下地となるものであり、まずは出来た、そのことには意味があると思う。

これが最初的一步であって、どんどん活用されていくことで訂正や追加されていざと内容が高められていくことになればいいのだ。今年のいい人形劇フェスタでお披露目となる1冊です。(「人形劇の図書館」 湯見英明)



「人形劇図書資料目録」
湯見英明監修 飯田市人形劇資料調査活用実行委員会発行 2013



飯田駅の歩道に敷かれているワッペン図案の陶板。電車やバスを利用して飯田へ訪れる人々を出迎えます

いいだ再発見

「街のなかを探そう」の巻

ふだん車で移動していると、気がつかないでいることって案外多いものです。飯田の街のなかには、人形劇にまつわるものがいくつもあるのですが、みなさんどのくらい思い浮かびますか。

まず、飯田市営今宮球場の壁面にある人形劇フェスタの参加証ワッペンの図案。これはかなりの大きさです。それから車で行き来している方にもおなじみですね。飯田市民館前にも同様に、1979年に始まった「人形劇カーニバル飯田」から今年のものまで35点がずらりと並んでいます。

続いて飯田駅。歩道に視線を下



飯田市営今宮球場の壁面



銀座商栄会の「木製看板」

た絵を見ればその店が何を扱っているのかが一目瞭然。なかには人形をモチーフにしたものもちらほら。人形劇を観る合間にあちこちを歩きながら「街なか探し」を試みましょう。

人形劇団「寺小屋」

飯田市公立保育園に勤務する保育士のみなさんと平成18年に結成した人形劇団「寺小屋」。いいだ人形劇フェスタに毎年参加しているのはもちろん、国内外の人形劇祭にも出演経験がある実力派です。「結成して間もなく、韓国の春川人形劇祭に



プレフェスタでは7月27日(土)10:00~竜丘公民館大ホール、フェスタでは8月10日(土)10:00~中村会館で「おむすびころりん」を上演します

出演したときのこと。セリフのない、人形の動きだけの作品を上演したのですが、途中から観客の様子が変わってきて、次第に会場に拍手が広がりました。そのときは感動して鳥肌が立ちました。国も言葉も超えるということ、を全員が実感した瞬間でした」と代表の丸井章子さん。同じ思いを分かち合ってから7年。新たな仲間も加わり、月2回の定例会では皆さん仕事の疲れも忘れて作品づくりで没頭するそう。現在は、7月27日のプレフェスタ、そしてフェスタ本番に向け熱の入った練習が行われています。「人形劇を演じることも、観ることも大好き」というメンバーの声からはフェスタが待ち遠しくて仕方がない、というわくわく感が伝わってきました。



「おむすびころりん」はレパトリーの一つですが、今回は人形、道具、舞台をすべて一新。それぞれの素材選びや作り方にはメンバー全員の意見やアイデアが取り入れられています。人形の肌の質感、道具の立体感には特にこだわりがあるそう



公演後、バックヤード(舞台裏)を公開する劇団も多い。人形はもちろん、舞台装置、小道具など、先ほどまで観ていたものがどう動いていたのか、どんな仕掛けがあったのかなど、観客と劇団員との交流がうまれる(写真は5月に飯田文化会館で行われた「ぱびぶべば劇場」の様子)

「何で喰っているんですか」(人形劇です。これが仕事なんです。プロですか?)。しかし考え込んでしまう。私が人形劇の世界に入ったとき幼稚園での公演料は1ステージ10万円。2013年の今もなんと10万円と消費税。40年間値段の変わらないものといえばバナナと卵だけだとか。では全体の上演回数が増えたのか?否?。これによいのか文化国日本。

全人協通信
 専門人形劇団事情①
 劇団員のつづやき
 「プロってなあに!」
 一般社団法人
 全国専門人形劇団協議会
 専務理事 永野むつみ

全人協とは人形劇の普及と芸術性の向上をはかり、人形劇表現への理解と支持を拡げることがめざし、1997年に発足。47劇団が加盟。

ちかごろときどき上演の後、舞台の裏をご覧いただくバックヤードツアーをします。もちろん対象は大人だけです。私の人形劇は片手遣いの人形劇で、衝立のあるタイプです。どうも大人も子どもも、隠れれば隠れるほど、隠れているものを見たがるものようです。
「こんなに人形は小さかったですね」(そうですね。自力クローズアップといいますが、人の目は集中すると対象が大きく見えたりするんですね。照明はさらにそれを助けます。)
「へえ。こんなに狭いんだ」(舞台を額縁で囲み切り取ると、かえってその中は広く感じとれたりするんですね。)
「そんなやり取りの後必ず出る一言。「わー!これみんな手作りですかあ」(ええ、とりあえずプロですから)。
「そうなんです。人間の芝居と違ってほと